



能美電廃線までの背景と経緯について

◆ 急激なモータリゼーション普及で利用者激減



◆ オイルショックが追い討ち

能美電の輸送人員（一日当たりの乗車人員）

対象年	乗車区分		合計乗車	指数
	定期券	定期券外		
1970年(昭和45年)	1,537	647	2,184	100.0
1971年(昭和46年)	1,495	580	2,075	95.0
1972年(昭和47年)	1,344	566	1,910	87.5
1973年(昭和48年)	1,463	510	1,973	90.3
1974年(昭和49年)	1,469	447	1,916	87.7
1975年(昭和50年)	794	405	1,199	54.9
1976年(昭和51年)	628	408	1,036	47.4
1977年(昭和52年)	586	354	940	43.0
1978年(昭和53年)	481	323	804	36.8

北陸鉄道能美線存続に関する調査書

上表のように能美電の利用状況もオイルショック以降、昭和45年の3分の1に落ち込んでいます。昭和45年には約2000名ありましたが、オイルショック後の昭和50年では約1000名/日に半減しています。

更に、昭和50年代に入り能美電の利用客数は減少し続けて、昭和53年には800名/日に減少しました。

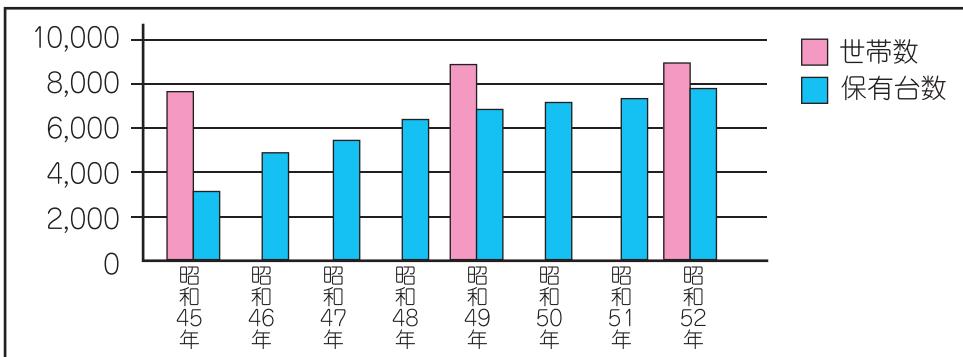
能美電の利用状況は昭和30年代前半をピークに通勤通学を始めとする乗客や貨物数に於いても下降傾向になってきました。一方、金沢小松間のバス輸送が増加してきます。

昭和40年代に入り運行本数の低減や運賃値上げ等により経営を維持していましたが昭和48年の第1次オイルショックにより能美電の経営収支は加速的に悪化となりました。

収支状況を見ますと、収入は輸送量の減少を数回の運賃値上げでカバーし何とか年間3000万円台を確保していますが、支出は年間1億2000万円と4倍に膨れ上がり経営的危機に陥りました。（「北陸鉄道能美線存続に関する調査書」より）

能美市内でも自動車保有数が激増

対象年	世帯数	保有数	世帯保有率
1970年(昭和45年)	7,717	3,010	0.39
1971年(昭和46年)		4,706	
1972年(昭和47年)		5,586	
1973年(昭和48年)		6,286	
1974年(昭和49年)	8,550	6,755	0.79
1975年(昭和50年)		7,181	
1976年(昭和51年)		7,454	
1977年(昭和52年)	8,624	7,894	0.92

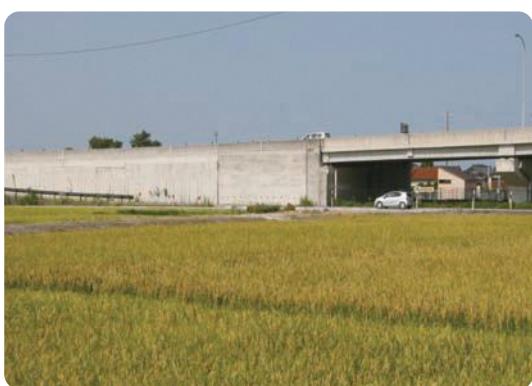


北陸鉄道能美線存続に関する調査書

前表、グラフのように大幅に減少させたもう一つの要因は、自家用車保有台数の増加と思われます。

生活様式の多様化、広域化により自家用車を保有する人が昭和40年代以降急激に増加し、これがモータリゼーションの波となって全国的に広がったためでしょう。旧能美市内に於ける乗用車の保有台数は昭和45年約3,000台が昭和52年では約8,000台で2倍以上に増加しています。

◆ 国道8号線高架化工事への対応策



高架となった国道8号線

多量輸送が主であった時代には鉄道がその力を存分に発揮しました。しかし、経済の拡大発展と道路整備はモータリゼーションを急進させ、快適で利便性の高い交通機関を選択する自由度を得る方向にシフトしました。

この様な背景を受けて、国道8号線と157号線バイパス工事が能美電と交差する問題が発生しました。このうち金沢西バイパスが、五間堂付近で能美線と交差することになり、高架線

踏切工事に掛かる費用と能美電の採算性、将来の道路交通網の観点等から検討した結果、昭和54年5月30日を以って能美電を廃止し、バスによる代替輸送にしたい旨、運営事業者の北陸鉄道株式会社から関係機関への提案が出されました。

◆ 存続策も効果なく廃線決定

能美電廃止提案に接して特に影響を受ける旧辰口町では、能美電存続を念願に種々の施策を独自に実施しました。存続のための路線変更、新規路線の検討、団地造成や企業誘致等、町振興施策にも努力を傾けてきましたが、モータリゼーションの波には勝てず、昭和55年9月13日を以って廃線となりました。

◆ さよなら電車の運行



1980年(昭和55年)9月13日「さよなら能美電車」の記念行事が実施されました。当日は、これまでの能美電への感謝を込めてか天候も快晴に恵まれ、多くの沿線住民が螢の光の曲が流れる中、最後の別れをしました。

1925年(大正14年)運行から55年間、1934年(昭和9年)の手取川大洪水や1963年(昭和38年)の豪雪等幾多の障害にもめげず、地域住民の足となり貨物輸送を担い地場産業の発展に大きく寄与してきた能美電、そのたくましき勇姿を頭に刻みながら別れを惜しむ「さよなら電車」の運行でした。

能美市を一直線に結ぶ能美電が無くなるときに、奇しくも旧三町の町長さんが、「さよなら電車」に同乗されていたのも印象深いものがありました。

55年間、通勤通学貨物輸送等を通して、多くの人達に沢山の夢や思い出、そして出会いの場を提供してくれた「能美電」ありがとうございました。

写真上：運行されたさよなら電車

写真中：さよなら電車の職員へ

地元の子供から感謝の花束贈呈

写真下：さよなら電車での根上町森町長、

辰口町松崎町長、寺井町中田町長

◆ 能美電は生きている(博物館の能美電広場に保存展示)



昭和26年に製造された能美線を走った車両(モハ3761号)は、昭和55年の廃線後には浅野川線、石川線にも走り続けましたが平成18年に現役を引退し、能美市立博物館横の能美電広場に保存展示されています。

車内には運行時の懐かしい写真や資料等が数々展示されており、往時の乗車気分を味わいながら、遠くなりつつある昭和時代へタイムスリップできます。電車内へは昼間は自由に入りできますので、ぜひお出かけを!